

武藤芳照の正義



現在のNHK朝の連続ドラマ「とと姉ちゃん」が好調だ。一時は、販売部数100万部を誇り、女性に役立つ生活雑誌「一家に1冊」とまで言われた

朝ドラの金メダル

「暮らしの手帖」の創設者・社長

であった大橋鎮子さんをモデルにしたドラマだ。

私は、健康とスポーツの分野の編集・構成・企画等でお手伝いをした縁で、随分と親しくさせていただき、女優の水谷八重子さんをはじめ、さまざまな著名人との縁や交流の機会をいただき、今もそのおかげをこうむっている。

朝ドラの影響力は抜群であり、次々と関連書籍が出版され、NHK他のテレビ番組で人物紹介や出演者の登場が盛んに行われ、雑誌の特集項目に組まれたり、地元では様々なイベントが行われたりする。主演女優はもとより、脇役俳優への注目度と人気は一気に上昇する。

2020年東京五輪・パラリンピックを控え、スポーツ人を主人公とした朝ドラが生まれるのも良いだろう。五輪の水泳女子200m平泳ぎの金メダルと言えば、平成4(1992)年バルセロナ五輪の岩崎恭子選手の活躍が有名だ。水泳チーム・ドクターとして同行していた私は、その現場に居たが、電光掲示板に表示された「1」を見た直後の全身の血が湧き立つ興奮は、今も鮮明に覚えている。

その同じ種目で、今から80年前の昭和11(1936)年、ベルリン五輪で優勝し、金メダルを獲得したのが、前畑秀子さん(1999年5年80歳で没)だ。「前畑がんばれ」とNHK河西三省アナウ

ンサーが23回連呼した歴史に残るラジオ実況中継放送で、日本中を興奮のるつぼにしたエピソードは有名だ。和歌山県橋本市に生まれて15年間、名古屋に16年間、岐阜市に49年間在住し、水泳を通して、輝く女性として波瀾(はらん)万丈の人生を歩んだ。私も名古屋市の水泳の催しもの際にお会いし、親しくお話をさせていただいたことがある。苦難と風雪を耐え抜き、ひたむきな努力の日々を送った優しさを感じさせる笑顔が印象的だった。地元橋本市では、「前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会」(TEL・FAX073613313922)を立ち上げ、「次のゴールはNHK朝ドラだ」と張り切っている。朝ドラが五輪を応援し、スポーツの普及・振興に役立つのも素晴らしい。(日体大総合研究所長)

コラムの掲載は今回で終わります。